



東京登文会NEWS

東京都登録有形文化財建造物所有者の会

第12号

令和4年06月01日発行



在りし日のギャラリーエフ

浅草「ギャラリーエフ蔵」 調布市・深大寺への解体、移築そして再生へ!!

会員の村守さん(ギャラリーエフ)所有の「ギャラリーエフ蔵(旧竹長材木店蔵)」が台東区浅草から、調布市深大寺に移築されることが決まり、移築に伴う解体が進んでいます。深大寺で再建されるまでは、数年かかる見込です。村守さんに移築の経緯などの手記をいただきましたので、ぜひお読みください。また、ギャラリーエフ最後の展覧会の観覧記も合わせてご覧ください。なお、東京登文会ホームページでは、「ギャラリーエフ蔵」の内部見学会で配布された資料などを公開しております。ぜひ一読ください。

東京登文会掲載ページ

(<https://www.yukei-bunkazai-tokyo.net/EventPhoto/view40.cgi?mode=frame&eno=10>)

登文会のみなさまへ

ギャラリーエフ・村守恵子

昨年(2021年)、蔵の移築先について東京新聞に掲載いただいてから多くの古建築を保存する会の方々はどうしたらいいのか一緒に考えて下さいました。当会の三船さんにもお世話になりました。その後、いろいろな方が蔵を譲り受けたいと目にこられました。みなさま、本当にありがとうございます。さらにメキシコのCASA WABI 財団は「メキシコに移築したい」と言って下さいました。しかし、その移築、保存の費用は莫大です。クラウドファンディングや、国内の財団から助成金を得られようとして申請してはどうかとご提案頂き模索しておりましたが、いずれも申請団体の条件が厳しく個人や株式会社では申請できませんでした。そうしている内に解体明け渡しの日程が決まって、気が気ではありませんでした。10月には、台東区文化財保護審議会委員の稲葉先生から調布市の深大寺様をご紹介頂き、ご住職と檀家総代の方が浅草において下さいました。住職が檀家総代に話かけると「いいですね!」とおっしゃられたその時、居合わせたギャラリーエフのお客様が感動してくださりました。新聞、雑誌、TVへと情報を流し続けました。2022年2月ようやく深大寺へ蔵の譲渡、そして地元浅草の堂宮鈴木工務店との契約が取り交わされました。3月22日にいよいよ蔵の解体が始まり、次々と解明されていく江戸時代の匠の技に、携わっている方たちも私たちも興奮しています。

開創1300年になる天台宗 深大寺に迎えられる江戸時代の蔵は次に新たな姿を見せるまでしばらく休眠いたします。現在の国の制度では移築、保存の費用など望むべくもなく、台東区も東京都も及び腰でした。現状変更届と所有者変更届の手続きでいろいろな書類が必要で非常に煩雑でした。江戸時代から続く材木町(旧町名)の歴史の記憶を記録すべきと思ひ区議会に働きかけ、建築課、文化財保護係が動き出しました。その地にあったという歴史は、建物が無くなった後もその地域の財産であると思います。そして、改めて調査をしながら記録を纏めて映像に残しております。東京登文会でこれまで学んだことが役立っていると思っています。

2022年4月9日

金澤会長と村守さん

ヘッドライン

- ギャラリーエフ蔵の移築について.....P1
- 【特報!】文化庁京都移転日決定!!.....P2
- 年末特別企画「ギャラリーエフ見学会」.....P3
- 総会の開催について.....P3
- 新規会員紹介「浅草 茶寮一松」.....P4
- 西洋館倶楽部が市川市景観賞を受賞.....P4
- 京都登文会研修会に参加して/全国登文会通常総会.....P5、6
- スナップ写真館.....P7
- 会費について.....P8
- 編集後記.....P8

【特報!!】
文化庁の京都府移転
来年3月27日に決定!!



かねてより
文化庁の京都
府への移転が
準備されてお
りましたが、
5月21日に
京都訪問中の
岸田首相より
正式に**来年3
月27日からの
業務開始**と日

程が発表になりました。旧京都府警察署本部の建物に約3年をかけて耐震工事等内装工事を施し、新しい文化庁庁舎としての準備が進んでいます。

中央官庁の東京からの移転は明治維新以来初めてのことで中央官庁の東京一極集中を解消への第一歩となります。わたしたち登文会としても再三の要望書提出などで訪れる機会も多く、昨年10月には都倉俊一長官にお会いして全国登文会から要望書をお渡ししております。登文会としても新しい庁舎を訪れることが楽しみです。

ギャラリーエフ見学会(年末企画)

主催：東京登文会事務局

年内で閉店の決まったギャラリーエフさん最後の展示会は画家の京都絵美さんの日本画展でした。クリスマスイブのこの日に集まったのは平間さんご夫妻、宇津木さん、アマチュア写真家の川野さん、と渡辺の5名でした。村守恵子さんと共に歴史有る空間に京絵美さんの絵が照明に浮かび上がり素晴らしいひと時を過ごしました。

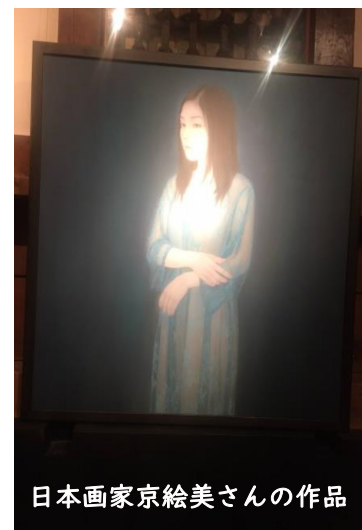
2021年12月24日



参加者一同で記念写真

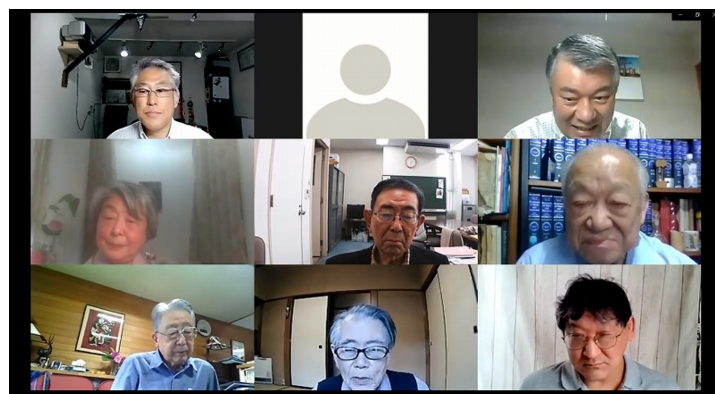


浅草松屋の屋上から見た東京スカイツリー



日本画家京絵美さんの作品

総会の開催について(東京登文会事務局)



コロナ禍が2年半続くなか、リモート会議が多用されております。当会でも昨年5月に「オンライン懇親会」を開催しましたが、これを軌道に乗せようと思っております。そこで、間が空いてしまいましたが、会員総会を **7月9日(土)PM2:00~** の開催を企画しております。

今後このコロナ禍が一段落し、リアルでの総会が開催された時にはリモート参加の受付もできるような体制を

作るよう企画しております。

(事務局：高橋)

【会員だより】

新規会員さん紹介

「浅草 茶寮一松」
女将 宮代清子さん

この度、浅草の「茶寮 一松」さんが、東京登文会に加入されました。4月29日にお話をお聞きしてまいりました。

昭和27年に浅草で開業した和食店「一松」が発祥です。上方で修行した初代が昭和34年にふぐ料理と会席の店として「茶

寮 一松」現在の地に開店したそうです。2代目の女将さんは、初代の娘さんです。女性で初めてふぐの調理師免許を取得したことで有名になりました。現在は、3代目の女将は宮代清子さんです。2代目の女将さんは、大女将として「一松」を見守っておられます。また、編集者、発行人として、「婦人画報」に参画しておられました。また、現在、90歳のYouTubereとしても活躍しておられます。

こちらの建物は、初代がお気に入りであった「京都柵屋旅館」の佇まいを要所に取り入れた造りとなっています。

【文化庁データベースより抜粋】

茶寮一松表門及び塀、店舗及び住居(S35年、2021.10.14登録)



敷地南・東辺を区画する塀と、隅切部に建つ門。門は切妻造、棧瓦葺、軒銅板葺の腕木門で、桁や腕木を塗込め、柱を重厚なタイル貼、板扉を吊り、左脇に潜戸を設ける。塀はコンクリートブロック造、腰を鉄

平石貼、棧瓦葺。落ち着いた雰囲気料亭に相応しい。浅草雷門通の一筋南に位置する入母屋造料亭。敷地南の前庭を囲むし字形平面で、入隅を玄関、南面して座敷を並べ、北に住居部を配す。二階は三間続きの大広間を配し、床の間と舞台を設け、宴席の時代相を示す。随所に銘木や彫刻を飾る数寄屋意匠の料亭建築

市川市景観賞を受賞して

いちかわ西洋館倶楽部 渡辺俊司



本年1月26日、市川市より第15回市川市景観賞を受賞致しました。私の運営する西洋館倶楽部の維持、管理、活用の実績が評価されたものです。西洋館倶楽部は私の祖父、渡辺善十郎（丸水証券社長、衆議院議員）が関東大震災で深川の住宅を焼失し、昭和初期に避難場所を兼ねて渡辺家市川別荘として建設したものです。私の代になってからその優雅な姿を残すためにホールを増設の上、西洋館倶楽部と名付け音楽ホール、ギャラリーとして公開致しました。当初は趣味のシャンソンを聞く場として多くのプロ歌手を招きました。その後クラシック音楽やピアノの発表会などあらゆる音楽シーンの会場として市内外の方々に使われるようになりました。西洋館倶楽部はオープンから約25年になります。平成11年には文化庁より登録有形文化財の指定を受けました。県内9号、市内1号と早い時期の登録となりました。現在千葉県内には300軒の登録有形文化財の建造物があります。マスコミでの紹介も多くなり「ラジオ深夜便」「NHK1都6県」「なんでも鑑定団」「百年名家」などの取材を受けました。市川市は嘗て実業家の別荘地帯としてクロ松林とともに東の鎌倉と呼ばれた土地でした。市川に残った唯一の大正ロマンの洋館として市の魅力を後世に伝えて参りたいと存じます。

令和4年4月7日

全国登文会だより

京都登文会研修会に参加して

事務局長 渡辺俊司

(全国登文会副理事長)

参加日 : 2021年12月5日

実施場所: 滋賀県東近江市

参加者 : 27名

研修行程

集合: JR琵琶湖線能登川駅



中山道の宿場、藍川町「竹平楼」で女将より明治天皇『御座所』の説明を受け、後に昼食会



バスで移動、五個荘金堂町へ→街並み保存地区の散策
(近江商人屋敷見学)



塚本喜左衛門家住宅で休息、後ディスカッション



徒歩で移動、五個荘山本町「小泉重助家住宅」を見学、交流会



解散: JR琵琶湖線能登川駅



京都登文会の研修会に参加させて頂きました。京都府のお隣の滋賀県で登文会設立の機運が盛り上がり、滋賀県の設立準備会を兼ねた研修会でもありました。

主な見学場所は、滋賀県東近江市五個荘（ごかしょう）です。この地は、伝統的建造物保存地区に選定されており近江商人の発祥の町として多くの蔵や立派な屋敷が多く残っています。白壁の塀や、土蔵、整備された水路など見どころ一杯です。京都登文会会長塚本喜左衛門さんのお宅も見学させて頂きました。どのお宅も庭の手入れも行き届いており持ち主の保存に対する気持ちが感じられました。

竹平楼での見学、昼食会



明治天皇御座所見学



食事会



五個荘金堂町へバスでの移動後、街並み保存地区の散策→塚本喜左衛門家で休息、ディスカッション



街並み保存地区を散策



塚本喜左衛門家で休息



手入れの行き届いた庭

ご当主のご挨拶

五個荘山本町『小泉重助家住宅』へ移動

移動は徒歩で小泉家へ



『小泉重助家住宅』を見学、研修

邸内の水流と鯉

奥様は陶芸家

小泉家を見学



邸内の井戸

小泉グループは灯りを創る企業です



(構成：高橋弘樹)

全国登文会通常総会 リモート会議 参加予定

2022年6月25日(土)14:00～

参加者

大阪、京都、秋田、愛知、群馬、東京、和歌山、
三重、神奈川の9都府県の各登文会の会員さん

みなさまのご参加を、お待ちしております

お申込みは、

東京登文会NEWS編集部・高橋マデ

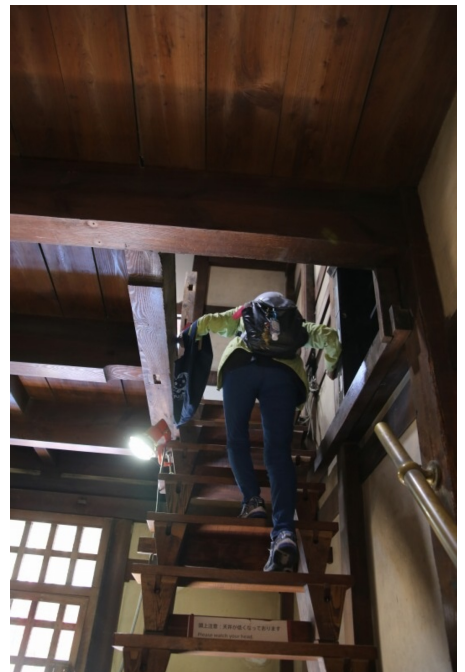
(メール:hiroki_photo39@yahoo.co.jp)

メールアドレスとお名前をお送りください。

折り返しご招待メールが届きます。

スナッフ写真館

ギャラリーエフ解体内部公開のスナッフ



編集後記

やっとのことでコロナ禍も一段落つきそうですが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。これまたやっとのことで第12号をお届けすることができました。今回は、ギャラリーエフの解体といったちょっと悲しい話題で始まりましたが、神代植物公園のある深大寺の一角に移築することが決まっており、光明であると言えます。移築が完了されましたらぜひ、経緯などをお蔵でお話いただこうかと思っております。当面は、コロナ後を見据えた総会や、イベント等の企画をどうするかといった事かと思います。また、東京登文会のパンフレットの作成などの広報資料を整える作業を充実しなくては、と思っています。今後ともよろしくお願いいたします

事務局編集担当

会費振込みのご案内

令和04年度の会費のお振込みをお願いいたします。

○会費は、本会の活動をするにあたって大切な資金です。なお、お振込みはコンビニなどのATMでも入金ができます。ぜひご活用ください。

振込先： ゆうちょ銀行
店名(店番)： 〇一八(018)
口座番号： 普通口座4190890
名義： 東京都登録有形文化財建造物所有者の会
(トウキョウトウトウロクユウケイブンカザイケンゾウブツショユウシャノカイ)

会員： 5000円(都内に登録有形文化財を所有されている方)
準会員： 3000円(他府県に登録有形文化財を所有されている方)
賛助会員： 5000円(当会の活動をサポートくださる方)
法人会員： 10000円(法人として登録文化財を所有されている方)

なお、6月末日を一応の締め切りといたします。

発行： 東京都登録有形文化財建造物所有者の会 事務局

発行・編集担当： 渡辺俊司、大和田真一、高橋弘樹
住所： 〒143-0023 東京都大田区山王3-30-5
☎/📠： 03(3771)0439
📠： 080(5440)2957